



1ヶ月健診

お産の後、親御さんは赤ちゃんとの生活がスタートします。1ヶ月健診は、そんな中で最初に受ける大事な健診です。赤ちゃんの健康状態や体重の増え方、隠れた病気がないかを確認するとともに、お家で過ごす中で困っていること、気になっていることを相談いただいているいます。



赤ちゃんと過ごす中では、ほかにもたくさん困ったことが出てくると思います。説明した内容がうまく当てはまらない方もおられます。解決しない悩みがある場合は、1ヶ月健診を待たずとも小児科へ相談してください。



洛和会音羽病院 小児科



〒607-8062 京都市山科区音羽珍事町2

外来のご予約

0120 (489) 300

月~金曜日：午前8時30分~午後5時
※土・日曜日、祝日、年末年始(12月30日~1月3日)を除く

生まれたての赤ちゃんから思春期の大きなお子さんまで、子どもの病気を全て診るのが小児科です。広く深い見識が要求されますが、当院には新生児や救急などさまざまな状況に対応できる守備範囲の広いスタッフが揃っています。子どもに関することはまず小児科にご相談ください。

らくわ健康教室

後援

京都市・京都市教育委員会

編集・発行／洛和会企画広報部門 TEL 075 (594) 8488

(ラ-25) 23.04 2,000 Ⓛ

かわら版らくわ健康教室

赤ちゃんのギモン!?

1ヶ月健診までの新生児トラブル

1ヶ月健診の際に、お母さん方からよく聞かれる疑問を紹介し、その対処法を紹介します。

医師が教える
対処法!



らくわ健康教室って？

らくわ健康教室は、一般の方を対象に、医療や介護の専門家が健康に役立つ情報を分かりやすく解説する無料の講演会です。会場での講演会に加えて、Webでの動画配信や紙面で病気の治療や予防、介護や健康保険・介護保険などについて発信しています。

(後援: 京都市・京都市教育委員会)

夢、そして誇り。この街で...
洛和会ヘルスケアシステム®

洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院

新生児トラブル

生後1ヶ月までの赤ちゃんを、新生児と呼びます。新生児は体に未熟な部分が多く、世話に手がかり、トラブルが起こりやすいものです。多いトラブルには次のようなものがあります。

- 上手に母乳やミルクが飲めない
- 吐き戻しが多い
- げっぷが上手に出せない
- 鼻づまりのような音がする
- 顔を真っ赤にしてうなる
- うんちが出にくい
- 肌やお尻が荒れる、かぶれる
- 目やにが多い



吐き戻し

吐き戻しは、ほぼすべての赤ちゃんが経験します。赤ちゃんは胃の入り口の部分が大人に比べて大変緩く、そのため、胃に残っている母乳やミルクが食道へと簡単に戻ってきて、それが口から漏れ出たり、げぼっと吐き戻すことになります。



赤ちゃんは哺乳のときに空気と一緒に飲み込むため、げっぷがうまく出せないと胃が張って、より吐き戻しやすくなります。

しゃべり声で泣いているように感じても、体重が十分なペースで

増えていて、おしっこやうんちがしっかり出ていれば、全く問題ありません。吐くのを減らしたい時は、まずはげっぷをしっかり出してあげてください。1回の授乳の時間や量を少し減らして、授乳回数を増やすと、吐き戻しが収まる場合もあります。

授乳のたびに激しく吐いて、体重が全然増えないような時は、胃腸の病気が隠れていることもありますので、小児科にご相談ください。

げっぷ

授乳の後にげっぷをうまく出してくれない赤ちゃんもたくさんいます。げっぷは、胃に溜まってしまった余計な空気を出すお手伝いです。げっぷが出なくても、しっかり飲めて、それほど吐かない赤ちゃんは、様子を見つめただけでも大丈夫です。そういう場合は大抵、後からおならとしてガスをしっかり出してくれます。

げっぷが出にくい時は、赤ちゃんの体勢を整えてあげてください。体を起き上がらせるようにすると、空気が上がってげっぷしやすくなります。まだ首が据わっていないので、肩口に乗せるようにしたり、首を支えながら座らせるような姿勢が安全です。背



肩口に乗せる
ような姿勢



首を支えながら
座らせる姿勢

中を上下にさすったり、やさしくトントン叩いてあげたりすると、げっぷを促すよい刺激になります。数分ほど頑張っても出ないのであれば、無理せず休憩させてあげてください。

らくわ健康教室Web版で動画配信中。

気になる健康情報をYouTubeにて毎月更新しています。
ぜひチャンネル登録を！

らくわ健康教室 検索



鼻づまり

赤ちゃんの傍らにいると、ふがふが、ひーひーといった鼻づまりのような音が聞こえることがあります。赤ちゃんの鼻や喉の粘膜は敏感で、空気の乾燥やほこり、冷たい空気などの、少しの刺激でも鼻水が出てきます。そういった音がしても、すやすや眠っていたり、機嫌よく起きているのであれば心配



はいりません。鼻づまりを予防するために、部屋が乾燥しそうな場合は加湿器を心掛けてください。

！ 鼻づまりで寝付けない、浅い呼吸が続いている、顔色が悪いようであれば、感染症の可能性もあるため小児科を受診しましょう。



排便

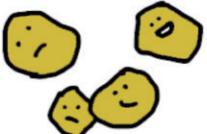
排便のリズムは赤ちゃんによりさまざまです。母乳の比率が多いと、水っぽく柔らかい便になり、1日に何回もうんちをします。人工乳が多いと、しっかりした便になり、1日1回より少ないペースになることもあります。哺乳が悪くなれば、大きな心配はいりません。肛門の綿棒刺激も、適度に行って大丈夫です。

母乳 多



1日に何回もうんちをする

人工乳 多



1日に1回より少ないペースも

！ お腹が張って触って硬いぐらいになる時は、強い便秘や排泄障害の可能性があるため小児科にご相談ください。

